質問への回答①

質問①：子どもに頭ごなしにいろいろ言ったり怒ったりするだけではだめだと思いつつ、毎日繰り返される日々に疲れることもあり、どうやって育てていくか悩んでいる。

回答：

発達障害のある子どもたちに関わるときにあまり効果がなく、下手をするとかえって状況を悪化させるかもしれない対応は「叱る」ことだと、私は思っています。

発達障害の子どもの特性として、周囲の状況や人の気持ちなど目に見えないことを理解する力が弱く、そのため叱られてもその意味を理解できていなかったり、全く違った意味に理解してしまったりすることが多いのです。だから結果的には行動の修正につながらないことが多く、叱った方は疲弊してしまうという結果になります。また大人が叱っているときは結構子どもの能力以上のことを求めているために叱っていることが多く、これは子どもにとっては苦痛に他なりません。

それに、「頑張る」ことを要求するときも、頑張れなかったら叱ることになっていませんか？私たちが頑張るためには頑張った結果を見通してどんなふうになるのかを想像する力が必要です。ASD の子どもはこの想像する力が弱いので、頑張ることができないことが多いのです。一生懸命“励まして”いるのに頑張らない子を見ていると「ふらふらしていて怠けている！どうして頑張れないの！」と叱ってしまいませんか？

こうして子どもを叱っている原因を一つ一つ丁寧に見ていく、つまり子どもが何に困っているのか、なぜできないのかを発達特性と結び付けて理解していくと、叱るのではなくどこに手を差し伸べればよいかが見えてきませんか？

でも、それでも叱りたくなることをたくさんするのが発達障害の子どもたちです。あまりしんどい時は子どものそばを離れてほんの 10 分ほどのリフレッシュの空間と時間を作ってはどうでしょう？ずいぶんホッとできるはずです。